

平成30年度第3回 習志野市地域支え合い推進協議会

**【開催日時・場所】**

平成31年2月8日（金） 午後2時から  
習志野市庁舎1階会議室

**【出席者】**

（委員）※会長の後、50音順  
山下会長、市瀬委員、大川委員、木野委員、佐藤委員、杉山委員、鈴木委員、  
西野委員、藤平委員、松丸委員

（市）

菅原健康福祉部長、中村同部主幹、岡澤高齢者支援課係長、  
伊藤同課係長、中村同課主査、本山同課副主査、野苺家同課主任主事、  
植草同課主事、田久保同課主事

（第2層生活支援コーディネーター）

大川（谷津圏域）、田久保（秋津圏域）、井上（津田沼・鷺沼圏域）、  
伊藤（屋敷圏域）、細野（東習志野圏域）

**【傍聴人数】**

0人

**【次第】**

- 1 開会
- 2 会議録署名委員の指名
- 3 健康福祉部長挨拶
- 4 議事
  - （1）住民主体による活動団体への補助金交付決定状況について
  - （2）シニアサポーターへのマッチングの流れとグループ化について
  - （3）第2層協議体の進捗状況について
  - （4）高齢者相談センターに寄せられる生活上の相談事からみる課題への今後の取り組みについて
- 5 その他
- 6 閉会

**【配布資料】**

- 資料1 平成30年度 補助金交付団体  
資料2 シニアサポーターへのマッチングの流れとグループ化について(案)  
資料3 各日常生活圏域 協議体 開催状況  
資料4 『高齢者相談センターに寄せられる生活上の相談事からみる検討課題』  
から整理する今後の取り組み

**【1 開会】**

山下会長の司会進行により、開会。

## 【2 会議録署名委員の指名】

会議録署名委員が市瀬委員と鈴木委員に指名された。

## 【3 健康福祉部長から挨拶】

菅原健康福祉部長から、委員に対し挨拶。

## 【4 議事】

### (1) 住民主体による活動団体への補助金交付決定状況について

(岡澤高齢者支援課係長より、資料1に基づいて説明)

<山下会長>

補助金交付の条件と金額を伺う。

<岡澤高齢者支援課係長>

補助金交付の条件として、団体の条件として、1年間以上継続できること、利用者を制限せずに広く地域住民を受け入れること、高齢者相談センター等と連携を図れること、本市の類似の補助金を受けていないこと。サービス内容の条件として、今回紹介している地域テラスでは、月に1回以上開催し、1回当たり1時間30分以上行うこと、体操・運動や趣味活動など介護予防につながる活動を行うこと、1回当たりの参加者が概ね5人以上であること。

補助金額は、立上げ費用が実費額で上限10万円、運営費用が実費額で上限月3千円である。

<山下会長>

資料1の団体は、補助金開始を機に立ち上がった団体はあるか。

<岡澤高齢者支援課係長>

新たに立ち上がったのは2団体。

<山下会長>

第2層生活支援コーディネーターが関わっている団体はあるか。

<岡澤高齢者支援課係長>

関わっている団体はある。

<山下会長>

コーディネーターからの報告をお願いします。

<細野東習志野圏域第2層生活支援コーディネーター>

資料1の東習4丁目笑学校に関わっている。笑学校は東習志野高齢者相談センターで基本プログラムを作り、立上げの支援から後方支援を行うという仕組みである。東習4丁目笑学校は、東習志野4丁目集会所で立ち上げる際に、ちょうど補助制度が始まるということで、運営者の判断で補助制度を活用して立上げを行った。内容は資料1のとおりである。

## (2) シニアサポーターへのマッチングの流れとグループ化について

(杉山第1層生活支援コーディネーターより、資料2に基づいて説明)

<山下会長>

資料2の説明について、第2層生活支援コーディネーターに伝えたか。

<杉山委員>

伝えている。

<山下会長>

委員にはまだ伝えていないか。

<杉山委員>

今回初めて伝えた。

<山下会長>

資料2に将来的にとあるが、いつ頃までにと考えているか。

<杉山委員>

先月、シニアサポーターの中心メンバーとなる方に初めて話し合いを行った。今後、資料2の案を示しながら説明を行い、話し合いを重ねる予定である。現在、説明を行っている段階であり、今後、どのような形態ならサービスを行っていけるかのすり合わせを行っていくところなので、具体的にいつ頃かはわからない。来年度中は難しいと考えている。

<山下会長>

杉山委員の意見として、資料2の方針で進めて大丈夫だと考えるか。

<杉山委員>

シニアサポーター養成講座の受講修了者が、平成28年度は24名、平成29年度は23名修了し、平成30年度からは市認定ヘルパー養成講座として

行い、41名が修了予定である。圏域ごとに人数に差があるが、5圏域それぞれに修了者がいるという状態になってきている。来年度は人数が少ない圏域に、人数を増やしていきたいと考えている。

これまで来ている相談については、必ずシニアサポーターに繋がられているため、十分に行っていけるのではないかと考えている。

<山下会長>

今後は第2層圏域と徒歩圏域を想定しながら、地域の助け合いの人材資源の発掘・育成を、養成講座修了者を中心に、戦略的に進めていくということだと思ふ。修了された人の中にも、経験に差があるはずなので、その点を理解しながら進めると良いと思ふ。

### (3) 第2層協議体の進捗状況について

(各圏域第2層生活支援コーディネーターより、資料3に基づいて説明)

<山下会長>

第2層圏域の取り組みに関する報告事項が濃くなっており、第2層生活支援コーディネーターは、地域と関係者の個別あるいは共通の課題が見え始めてきたと思ふ。昨年度から2層の地域機関をどのように作るかを、地域住民や関係者とねらいを絞って話し合いを継続して、見えてきた課題や第2層協議体メンバーの問題意識には地域性が出てき始めているかと思ふ。

報告の中で、東習志野圏域が買い物について継続して取り組んでいる。この買い物支援は日常生活の中で不可欠なことのひとつであり、生活支援を考える上で、一丁目一番地の課題のひとつだと考えている。買い物支援が必要な人の中には、家の中に入れるサービスを拒絶する要支援または介護がまだ必要でないという層もあり、そういう人たちが地域の中で支えられる、支えるといった経験をすることや介護保険をどうやって利用するかなどの福祉教育や消費者教育も含めて進める必要があると思ふ。そのため、買い物や移動をどうするかということだけを突き詰めていくと、難しいというバリアを感じてしまうので、買った物のゴミ捨てや友達との交流ができないなどについても議論すると広がりが出ていくと思ふ。

報告を聞いて、いろんな発見と気づきがあったと思ふが、課題を見つけたことよりも、進んだところに注目して共有し合って、来年度はさらに進めてほしい。

### (4) 高齢者相談センターに寄せられる生活上の相談事からみる課題への今後の取り組みについて

(岡澤高齢者支援課係長より、資料4に基づいて説明。)

<山下会長>

本日は、資料4の4番「長期的に、行政や生活支援コーディネーターが、関係者と連携して取り組んでいく課題」として、担い手の充足の問題について、グループに分かれて意見交換する。

グループ討議

Aグループ（座長は山下会長）

山下会長（淑徳大学 総合福祉部 准教授）  
市瀬委員（公益社団法人習志野市シルバー人材センター）  
木野委員（市民協働団体運営）  
佐藤委員（マイプランならしの訪問介護事業所）  
松丸委員（習志野市秋津高齢者相談センター）  
伊藤第2層生活支援コーディネーター（屋敷圏域）  
大川第2層生活支援コーディネーター（谷津圏域）  
細野第2層生活支援コーディネーター（東習志野圏域）  
中村健康福祉部主幹  
野苺家高齢者支援課主任主事  
植草同課主事

Bグループ（座長は杉山委員）

大川委員（居宅介護支援事業所あろんぐらいふ）  
鈴木委員（市民協働団体運営）  
杉山委員（習志野市社会福祉協議会（習志野市生活支援コーディネーター））  
藤平委員（ならしの地域福祉事業所ぬくもり）  
西野委員（民生委員児童委員）  
田久保第2層生活支援コーディネーター（秋津圏域）  
井上第2層生活支援コーディネーター（津田沼・鷺沼圏域）  
伊藤高齢者支援課係長  
本山同課副主査

<藤平委員>

Bグループについて発表する。

既存の支援団体、シニアサポーターやシルバー人材センターについて、対応力やスピード、内容の充実の意見が出た。また、養成講座修了者が東地区側に少ないので、こちらの充実も必要。また、支援については無償や有償についての設定も必要である。また、ならしの地域福祉事業所ぬくもりでは、認定ヘルパーの内、子育て世代のお母さんの空いている午前を利用した「幼稚園組」を

展開しており、その世代の人の活用を活性化してはどうかという意見があった。

新たな支援団体の創出について、サービスの内容の他、団体の創出後の広報、情報の発信が一番の問題ではないかという意見が出ている。

また、どんな人が支援にあたれるかということで、地域を散歩している人や公園で体操している人、学校の同窓会などに声をかけてはどうかという意見があった。また、学生がボランティア実施により単位が取得できるということで、事業所にボランティアに来るので、声をかけられるのではないかといった意見があった。

<山下会長>

Aグループについて、まとめとコメントも含めて発表する。

そもそも、要支援やまだ制度にたどり着いていない人たちは、サービスに乗ってこない、あるいは、どう使ったらいいかわからない人たちは、資料4の問題を抱えているケースと考え、まずは、高齢者相談センターの人からどういう対応をしているかを聞いた。そういった人については、直接相談に応じているということで、非常に心強いところであるが、オーバーワークになったり、常態化したりしないように避けるということが地域づくりの発想なので、そうした状態を分析し、状況を共有しながら議論する必要がある。そのため、民生委員児童委員や社会福祉協議会の支部の相談を手繰り寄せる力が参考になるかと思う。

もうひとつが、シルバー人材センターについて聞いた。現在、相当な活動をしており、登録者は男性8割、女性2割おり、家事援助や食事サービスもしている。一般的によく認識されている草取りは3か月待ちとなっており、相当な役割を果たしている。そこで、シルバー人材センターの活動を肯定化しつつ、登録している人と、2層レベルで議論を交わらせることができるかというところで話が終わった。

サロンについて、木野委員にお願いする。

<木野委員>

自分から発信できない人について、サロンの参加者から情報を聞いて、訪問して話をしに行くこともある。大丈夫だという答えがほとんどだが、心配な人については福祉に繋がったこともある。少し変になったという人の連絡を受けたときには一緒に見守っていくという話をしたこともあった。

<山下会長>

サロンの中でも、市民同士の相談が行われており、木野委員の活動のように繋がり、受け止められているということを整理すると良い。

社会資源づくりについては、習志野市は民間非営利とインフォーマルを作る

うとしていると思う。社会資源づくりにはいくつか方法があるが、一つの方法として、既に担い手の創出は市の養成講座が行われているため、次は個人に注目して、個人にどの社会資源がついているかを確認する、その時、グループの他のお友達などの個人も社会資源として見る視点が必要である。その中でも、サービスにたどり着けていない、貧困の人について、介護だけでなく、経済面も含めて、一般的な地域でなく、個人について話し合うという方法もある。やりやすい方法で進めてほしいが、今後は、個別のケースを中心にしつつ、必要な資源を上げ、仕組みに合っているかを振り返るところまで、習志野市が進んできているように思う。第1層も第2層も課題がみられるところだと思うが、ここまで進んだということと見えていなかったことが見えてきたということの本年度のまとめとする。

#### **【5 その他】**

＜中村健康福祉部主幹＞

来年度は7月と2月に予定している。

#### **【6 閉会】**